

刻む会 たより

No.44

2011. 11. 10

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局 宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内)

TEL 〇八三六(二一)八〇〇三

活動カンパ 振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 〇1599007324005

追悼碑建立募金 振込先 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 〇137009986003

名義 長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立基金

ホームページ <http://chouseikizamukai-hp.web.infoseek.co.jp/index.htm>

加藤登紀子チャリティーコンサート
の成功を募金の広がりへ！

実行委員長 井上 洋子

九月二五日(日)のコンサート当日は、
広島在住でボランティアとして参加してく
れた裴学泰(ペハクテ)さんご一行のチャ
ング演奏がにぎやかに迎える中、歌手「加
藤登紀子」と同年代を生き抜いて来られた
中高年の皆さまを中心に一〇〇〇名を超え
る聴衆が集まってくださり、会場である「渡
辺翁記念館」はほぼ満杯になりました。主
催者にとって本当にうれしく思いがけない
結果となりました。

おなじみの「百万本のバラ」や「知床旅
情」に会場からは歓声があがりましたが、
特に東北大地震の直後に作られた歌「今ど
こにいますか」と「命結」(ぬちゆい)の二



曲は、「加藤登紀子」ならではの、弱い立場
の人々を包み込むようなやさしさと励まし
にあふれた歌詞と歌唱力で、会場内は心ひ
つになつて酔いしれたと思います。

コンサートに先立ち、内岡先生の案内で
長生海岸を訪れた加藤登紀子さんは、ピー
ヤの見える浜辺をゆっくり歩きながら、犠
牲者への追悼の思いを感じておられたよう
でした。第一部終了前には追悼碑建立のた

めの募金の訴えも直接していただきました。

また、当日飛び入り参加となりました永
六輔さんも、内岡先生に現地に案内してい
ただき、「私にできることは協力させてもら
います」とはっきり言われたそうで、コン
サート終了後の出口では募金箱の前に自ら
募金を呼びかけてくださいました。難病で
あるパーキンソン病と闘いながら、宇部ま
でかけつけて下さった永六輔さんの生き方、
姿勢には本心に心を打たれ、また必ず募金
を成功させたいという熱い気持ちと勇気も
いただきました。

私は、追悼碑建立資金二〇〇〇万円の募
金を実現するためには、まずは、宇部市民、
山口県民の地元の力を底上げしなくてはな
らないと思っていますが、同時に、全国レ
ベルで「長生追悼碑募金」活動を広げる必
要があると考えています。



コンサート会場の様子
会場は大勢の観客で埋めつくされた

そこで、昨春秋、著名な歌手「加藤登紀子」さんへお手紙を出して支援を訴えたところ、加藤事務所より快諾の電話があり、私は天にも昇るような気持ちになりました。しかし、刻む会の特にご年配の皆様方からは「本当に人を集めることができるのか」「赤字にはならないのか」という当然の心配や、独断で突っ走ろうとする私へのお叱りの声もたくさん出ました。確かに成功の可能性は五分五分だったと思いますが、何よりこのコンサートの企画を通じて一人でも多くの方に「長生」を知って頂くことが一番の宣伝だと考え実行に踏み切った次第です。



永六輔さん

コンサート終了後、ロビーの様子
募金を呼びかける永六輔さんの姿

今春にはコンサートのための実行委員会も立ち上げたのですが、実は名ばかりで実質は刻む会メンバーが中心となった小規模な運営の枠を最後まで突破できず、当日の手伝いのスタッフ動員もままならず不安がいったばいでした。そんな中でも、コンサート開催のベテラである宇部音楽鑑賞協会の清水さんが毎回実行委員会に参加してくださり、素人の私たちではできない、気付かつかない専門的な事等含め、本当に裏方として献身的に

フォローしてくださいました。感謝に堪えません。

著名な加藤登紀子さんと永六輔さんが長生炭鉱の取り組みに賛同しコンサートを通じて募金を訴えて下さったことで、「長生」のことを広く市民の皆様知っていただけるいい機会になったことと思います。

このコンサートの成功が、「長生」に関わってくれる人々を地元是全国に無数に生みだし、今も海底深く放置された人々の無念の魂と結びついて、そう遠くない将来に追悼碑建立が実現されるものと確信を深めております。

同時に、強制連行の悲劇故に異国の地で水没事故の犠牲となられた朝鮮人の遺骨を故郷の山河にお返しできるよう、御遺族の皆様と力を合わせて「遺骨収集」を現実のものとしていきたいと願っています。

遠く神戸や広島からもかけて頂いた皆様をはじめ、コンサートに来て頂いた皆様方、成功に向けて共に支えて頂いた全ての皆様に心より御礼申し上げます。何としても募金の目標額を達成するよう、共に頑張ってくださいませよう。



内岡さんの案内で長生海岸に訪れた加藤登紀子さん

加藤登紀子チャリティーコンサートの実況

引き続き、追悼碑建立へ!



渡辺翁記念会館の入り口で開場を待つ人々



チャング演奏

広島からボランティアとして参加してくれた裴学泰（ペハクテ）さんご一行のチャング演奏が開場を待つ人々を楽しませてくれました。



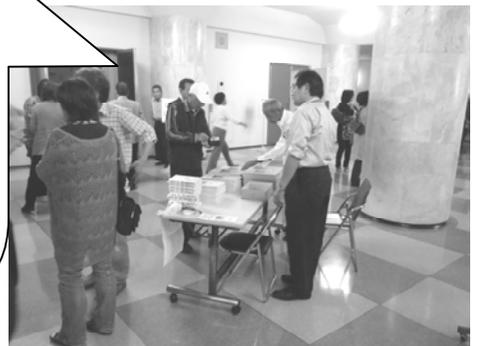
周南よりかけつけたルピナスの方々がコーヒー販売で応援してくれました。

半年前から、障害者が喫茶の練習をしました。少しでも加藤登紀子チャリティーコンサートでのコーヒー販売の売上はすべて寄付します。少しでもお役に立てることが出来て嬉しいです。



長生のパネル展示もありました。たくさんの方々に見ていただきました。

「刻む会」の長年の悲願であった「証言集」。この日間にあわせて完成!



「刻む会」の活動

宇部市との協議から思いつくこと

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

■ 内岡貞雄

1. 宇部市との話し合い、継続中

二〇一〇年二月を最後に、韓国の遺族による宇部市役所と山口県庁の表敬訪問は取り止めとなる。遺族の皆さんは「一八年間」もの長きにわたり、日帝植民地支配の反省の上に立つ“追悼碑建立”並びに“ピーヤの永久保存”を求めてきたが、行政側は「要望として聞いておく」という誠意のかけらもない対応に終始した。遺族の方々は毎年二月三日前後に追悼式（チェサ）を行うために来宇、両役所にも要請行動を行ってきたが、それが形骸化してしまっていると言われたのだ。私たちの力量不足もあり忸怩たる思いである。マスコミも表敬訪問はニュースにするけれども、その後一年間はほとんど報道しない状況で、いわば「私たち遺族が『さらし者』になるような表敬訪問はもうやめたい」との遺族会総会の意見を受けての中止であった。

一方、最後となった表敬訪問の折、当時

の久保章部長（宇部市役所健康福祉部）が「市としての具体的協力について、市民との協議を通じて『何が』出来るのかを考えたい」と発案され、「刻む会」としてはそれを受ける形で、次の三つを協議の柱に話し合いを続けているところである。

- ① 追悼碑建立への協力の協議（「歴史認識」に関する話し合い）
- ② ピーヤの管理と永久保存について
- ③ 情宣と市民・学校啓発について（「歴史的意義を知らしめる取り組み」への具体的協力、例えば石炭記念館に長生炭鉱のコーナー設置等）

現在まで八回の話し合いを重ねているが、まだこれという成果はない。今年一月二四日、久保田后子市長との懇談の席上、市長は「宇部市として『長生炭鉱の問題』とどう向き合うかを考え決めなくてはならないことである。これまでそれをやってこなかったと思う」と言われ、さらに石炭産業を経済基盤に一九二一年（T一〇）、当時の宇部村から一足飛びに市制を施行し発展してきた宇部市だからこそ「市内の各炭鉱の歴史を振り返り、その一つとして長生炭鉱

も取り組んで行かなくてはならない」という旨の発言をされた。押さえておくべき事であろう。



宇部市長との懇談の様子

2. 「小さな積み重ね」を大切にする

「刻む会」では、一九九五年八月から親子で学ぶ「長生炭鉱夏のフィールドワーク」を続けて今年で一七回目、毎年、小・中学生と保護者、一般の人たち三〇〜四〇人が参加している。本年は七月三〇日に実施されたが、今回、初めて宇部市広報紙（七月）

に「長生炭鉱夏のフィールドワーク案内」が掲載された。早目に対応した事もあるが、市役所との話し合いの折に、長生炭鉱のフィールドワークが話題になった。従来、市の広報紙は月二回の発行だったが、本年四月から月一の発行の中でのことだ。広報紙は市内全世帯をはじめ学校や公民館関係等にも配布されるので「長生炭鉱の情報」を知ってもらうだけでも大きな価値がある。

今年には宇部市制施行九〇周年にあたり、「石炭産業」に関するさまざまな展示が行われ、九月から宇部市石炭記念館で山本兵衛さんの絵画が展示された（彼の記録絵、日記、ノート六九七点が今年五月、『世界記憶遺産』に登録され、田川市石炭・歴史博物館には連日多くの人びとが押し寄せている）。その作兵衛さんが書いたノートに次の一節がある。

「（一九四三年）当時、大手炭鉱（三井系・麻生系）では、朝鮮からの徴用夫はもちろんのこと、中国人捕虜や、英米の捕虜が数多く強制労働をさせられていました。なししろ日本人の坑夫さえ（栄養失調の状態で）一四時間以上も坑内で酷使されている状態ですから、（彼らの状況は）それこそ目もあてられないような虐待であったようです。運よく生きのびて本国に帰ることのできた

者はまだしも、こんな筑豊の炭鉱で息をひきとっていった人たちは、さぞかし死んでも死にきれない気持ちであったことでしょう」（炭鉱に生きる）講談社 一九六七年P 一一六より）

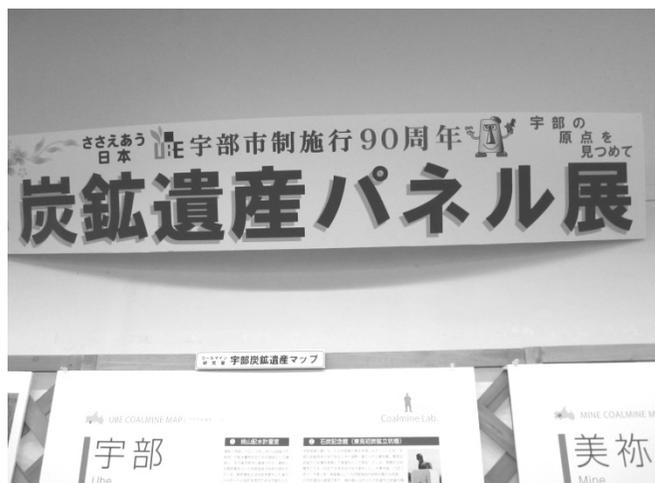
一人の炭鉱夫の目線によるものだからこそ描けた作兵衛さんの「思い」を知り、彼の絵を見てほしいものだ。

また、同石炭記念館で四月二九日から六月一九日にかけて、「炭鉱遺産パネル展」宇部の原点をみつめよう」が行われた。大手炭鉱の沖ノ山炭鉱や東見初炭鉱のパネルに並び⑫長生炭鉱が、三枚の写真と説明文で紹介されていた。

「・・・、一九四二（昭和一七）年に坑道が水没する事故が起こり、強制連行された朝鮮人を含む一八三名が犠牲になり閉山に追い込まれた。ピーヤ（排入気坑）の下には今も犠牲者が眠っている・・・」

同館二Fの「宇部の石炭の歴史と民俗」コーナー年表に「長生炭鉱、水没事故が発生（殉職者一八三名）」とあるが、これは二〇〇三年に山口代表ら「刻む会」が長生炭鉱水没事故の記載がないことに抗議してようやく書き加えられたものだ。そうした経過を見れば、今回の「強制連行された朝鮮人」の文言は、長生炭鉱水没事故犠牲者の

歴史を正しく伝えるための一助と言えるであろう。



3. 終わりに（韓国遺族の皆さんの「思い」を記憶にとどめて！）

二〇一一年も「長生炭鉱夏のフィールドワーク」をはじめとして、多くの方々と共に長生炭鉱跡地を一緒にまわる機会があった。「遠浅の海岸に二本のピーヤは目立ちますね。斜坑の様子もわかります」（東京合唱団 団長さん）

「ピーヤに向かって皆で『海の墓標』を合唱します！」(「悪魔の飽食」をうたう東京合唱団の皆さん)

「・・・、説明に頷き、じつと二つのピーヤを見つめていた」(歌手 加藤登紀子さん)
「水没事故現場は沖のピーヤから、かなり沖ですね」(読売新聞の記者)

「韓国に戻ったら『ピーヤ』のことを周囲の人に話します」(ソウル大学人類学科の教師)

「浅海炭鉱(長生炭鉱)と長崎の深海炭鉱(池島炭鉱)との違いを論議したいです」(東京の大学院学生たち)

「ピーヤがあるこの場所に來れて、本当によかった」(話術の達人 永六輔さん)とりわけ、永六輔さんは週刊金曜日(二〇一一年一〇月一四日 八六七号)の「話の特集」に長生炭鉱の記事を載せてくれた。

「この宇部の海岸から、沖を見ると、円形の柱が二本立ってますね。あの下に炭鉱があつて、それが戦争中に水没しちゃたんです。が働いていたのが、強制連行されてきた朝鮮人。戦争中は北海道から長崎まで、何千何万の朝鮮人が強制労働で死んでいます。山口県の人は『水非常』という事故名で知っている人が多いんですけど、知られていませんね。宇部でも法事をしてます

けどね」

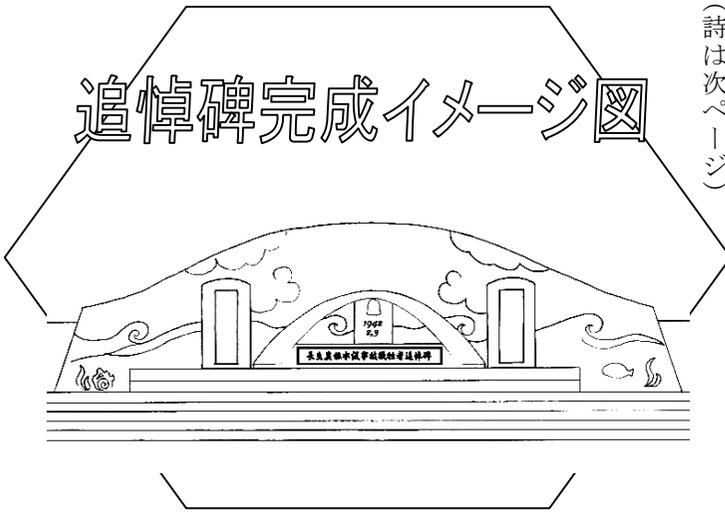
「さまざまな思い」を述べてくださった皆さんに感謝しながら、私たち「刻む会」もピーヤの保存に力を注がねばと思う。

来宇の時、韓国遺族の皆さんが抱かれる「恨」の思いを受け止め、記憶し、宇部市との話し合いにのぞまねばならない。

次の詩は、数年前に寒風吹き抜ける長生海岸で、しばし、ピーヤを見ていた時に作った詩である。この時の気持ちを忘れずに宇部市との協議に参加したいと思っている。

(詩は次ページ)

追悼碑完成イメージ



～長生炭鉱水没事故 70 周年記念追悼集会のご案内～

2012 年 2 月 5 日(日) 14 時～16 時 15 分

場所：宇部市文化会館

- 長生炭鉱水没事故犠牲者遺族証言
- 長生炭鉱の悲劇を歌った

「悪魔の飽食」を歌う東京合唱団と地元合唱団による

「海の墓標」(曲：池辺 晋一郎 詩：芝 憲子)の合唱 ほか

ピーヤからの声を聞こう

穏やかな海岸沖のピーヤから声が聞こえるだろうか？

六九年前坑道に閉じ込められた坑夫たちの叫び声が

「故郷は慶尚北道浦項の杞溪面だ」

「一九四一年七月ある日、突然、ここに連れて来られたよ」

「事故当日、俺は午前四時頃寮に戻って寝たよ」

「海がほけた！ほけた！ほけた！」と叫ぶ声で目が覚めたよ

「助けてくれ！助けてくれ！」のかすかな声、ごうごうと響く水柱の音

朝鮮人の若者は坑道先端部の採炭現場で七〇人が亡くなったよ

ほかの朝鮮人犠牲者六七人に加え、沖繩出身者や部落の人たちもいたらしいよ

漏水は六〇日も前から続いていたのに「大丈夫！」とよく言うよ

漏水も坑内落盤も恐ろしかよ

コレラになればすぐ火葬場送りよ

人間の誇りを持ちたいと寮を脱出、でも捕まれば半殺しの目にあつたよ

朝鮮人、沖繩出身者、部落の者は人間として扱われなかったよ

「くやしいね、死んでもからも国や行政、会社の真心が見られないなんて」

原爆、空爆などの戦争被害だけを叫び、アジア民衆への加害を忘れた人びとよ！

あなたたち日本人は、朝鮮人に心から謝罪する気持ちを持っていいのか！

六九年経つからといって過去の歴史を水に流してはいけない！

今からでも遅くない！

韓国・朝鮮人強制連行と長生炭鉱水没事故の歴史を正しく知ろう！

そこから、友好・平和な日韓・日朝・日中関係の構築が可能になる

二〇一一年九月二五日（加藤登紀子チャリティーコンサート当日）

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会 副代表 内岡貞雄



穏やかな海に立つ2本のピーヤ(向うに姫島が見える)

「刻む会」活動日誌

「刻む会たより」No. 42
以降の活動

四月 九日(土)

- ▽第一回 加藤登紀子チャリティーコンサート実行委員会



五月 一九日(木)

- ▽長生事務局会議及び建立委員会
- 五月 一四日(土)
- ▽無窮花の会総会出席

五月 二六日(月)

- ▽韓国広島総領事との懇談会

六月 四日(土)

- ▽第三回 加藤登紀子チャリティーコンサート実行委員会

六月 八日(水)

- ▽悪魔の飽食を歌う東京合唱団の方が来られて打ち合わせ

- ▽民団・総連の方にてコンサートの協力依頼

六月 一日(土)

- ▽市民教養講座にてチラシ配布

六月 二日(日)

- ▽激情のパロック！ チラシ同封作業

六月 一六日(水)

- ▽宇部市との協議(P4〜6報告参照)

六月 二三日(木)

- ▽事務局会議及び建立委員会

六月 二五日(土)

- ▽第四回 加藤登紀子チャリティーコンサート実行委員会

七月 二日(土)

- ▽読売新聞取材
- ▽教科書問題講演会にてチラシ配布(宇部)

- ▽平和憲法ネットワーク・やまぐち総会・原発問題講演会(山口)にてチラシ配布

- ▽山口県母親大会 in 宇部にてチラシ配布

五月 一〇日(火)

- ▽第二回 加藤登紀子チャリティーコンサート実行委員会



→パネル展示



→物品販売→

七月 三日(日)

- ▽山口県母親大会 in 宇部にてチラシ配布

布

四月 二四日(木)

- ▽事務局会議及び建立委員会

五月 一日(日)

- ▽宇部メーカー集会チラシ配布

五月 五日(木)

- ▽宇部新川祭りにて物品販売・チラシ配布

五月 一〇日(火)

- ▽第二回 加藤登紀子チャリティーコンサート実行委員会

五月 二一日(水)

- ▽宇部市との協議(P4〜6報告参照)

七月五日(火)

▽長生犠牲者 尹徳龍 氏の遺族(娘) 来宇

七月一〇日(日)

▽コープやまぐち労働組合 原発問題講演会にてチラシ配布

七月一七日(日)

▽第五回 加藤登記子チャリティーコンサート実行委員会

七月二一日(木)

▽事務局会議及び建立委員会

七月二八日(木)

▽宇部市との協議(P456報告参照)

七月三〇日(土)

▽夏のフィールドワーク (P12報告参照)

八月一日(月)

▽第六回 加藤登記子チャリティーコンサート実行委員会

八月二日(火)

▽民団新聞取材

八月二〇日(土)

▽第七回 加藤登記子チャリティーコンサート実行委員会

八月二七日(土)

▽事務局会議及び建立委員会

九月二日(金)

▽悪魔の飽食を歌う東京合唱団来訪



長生海岸で歌う
東京合唱団

九月三日(土)

▽第八回 加藤登記子チャリティーコンサート実行委員会

九月八日(木)

▽コンサート会場打ち合わせ
▽朝鮮総連第五回セミナー参加

九月三(土)〜四(日)

▽平和のための戦争展 パネル貸し出し

九月一〇日(土)

▽ケーブルテレビ取材 (コンサートアピール)

九月一三日(火)

▽在日韓国人歴史資料館(東京・関西の大学教員・大学院生)フィールドワーク

九月一五日(木)

▽ラジオ KRY 山口放送、FM きららにてコンサート情報放送

九月一七日(土)

▽事務局会議及び建立委員会

九月二二日(木)

▽宇部市との協議(P456報告参照)
▽第九回 加藤登記子チャリティーコンサート実行委員会

九月二五日(日)

▽加藤登記子チャリティーコンサート

(P153報告参照)

一〇月七日(木)

▽事務局会議及び建立委員会

一〇月一一日(火)

▽第一〇回 加藤登記子チャリティーコンサート実行委員会

一〇月二三日(日)

▽共同通信社取材
▽韓国の一〇一生命平和紀行の牧師 五人来日・フィールドワーク



「加藤登紀子チャリティーコンサート in 宇部」会計報告

(円)

収 入			支 出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
チケット売上	5,174,500		事務費	37,978	
コーヒー売上	15,200		宣伝費	378,892	チケット印刷含
懇親会会費	119,000		会場費	489,588	現地照明、ピアノ調律含
カンパ	359,521		出演料	3,171,000	
CD 販売手数料	11,760		宿泊交通費	353,799	
東日本大震災募金	7,500		アルバイト代	17,000	
			チケット委託料	89,047	
			日本音楽著作権協会	240,240	
			懇親会	133,400	出演者等負担含
			東日本大震災募金	7,500	
			小 計	4,918,444	
			残 高	769,037	追悼碑募金に繰入
合 計	5,687,481		合 計	5,687,481	

「長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金」会計報告 (2011年3月1日～10月31日) (円)

収 入			
科目	期間金額	累計金額	備考
カンパ	1,349,650	4,929,378	建立募金設置以降
雑収入	26	6,026	利息
借入金	-1,150,000	4,850,000	115万円返済
繰入金	0	1,430,000	刻む会会計より
加藤登紀子コンサート会計より	769,037	769,037	
合 計	968,713	11,984,441	
支 出			
科目	期間金額	累計金額	備考
事務費	48,060	150,360	
委員会費	0	7,140	
土地管理費	0	1,195	
雑支出	12,790	30,410	郵便振替手数料
建立費	0	7,639,130	土地代。整地代。
繰出金	0	14,870	刻む会会計へ
税金	-74,196	227,485	固定資産税 58,704- 取得税還付金 132,900
小 計	-13,346	8,070,590	
残 高	982,059	3,913,851	
合 計	968,713	11,984,441	

カンパ総額 7,128,415 円 (建立募金設置 2009.4 以後のカンパ 4,929,378 円 + 2009.3 以前の「刻む会会計」より 1,430,000 円 + 加藤登紀子コンサート会計より 769,037)。

追悼碑建立募金報告（2010年3月1日～2011年2月28日受付分）丸数字は回数

- (個人) 赤間至 明田恵子 安部義祐 天宮利幸 李陽雨 石井末雄
石川宣道・まなか② 石飛宏② 井上洋子 猪股健太郎・かをる
今橋朗 入井真一 上西創造 上野尚 牛見信夫 梅澤幸二郎
呉世憲 大黒春江 大隅礼次郎・督子 太田真由美 岡田淳子②
岡本愛子 岡本直子 金光国男 神谷顕史 木原千成 金優綺
木村道江 久藤美津子 倉本栄子 鍬野保雄 クワハラ イクロウ
小池謙治 斉藤美代子 坂貞子 坂本龍雄 笹原克彦 佐藤セツ子
澤田知夫 島村久子 清水秀夫 白川健一 末岡久枝 杉山ユキコ
清木和子 関田寛雄 関谷陽子 高市和久 高橋信 田上中②
田崎敏孝 田中真理 谷本育紀 趙忠男 塚田勲② 戸井雄二
中島郁子 中島定明 中原敬子 西浦昭英 西村章 野口千恵子
野村孝子 萩ルイ子② 花田克己 濱崎利範 原くに子 原田正暁
東島勇氣 福原宗男 藤井和義⑧ 藤部美世子 斐東録② 正木誠一
正木峯夫 舩富あさ子 松井かつみ 松田一夫 光成和正② 三谷裕子
三原祐介 都相太 宮田幸好 森波子 森田恒一② 森永肇子
薬師神善子 安川寿之輔 安村モミヨ 八尋淳一 山内小夜子 山下隆夫
山田忠文 山田真 湯木洋一 横山正代 吉村敬二② 脇本寿
和田伸 渡辺由美子
- (団体) 悪魔の飽食をうたう東京合唱団② アムネスティ宇部グループ 宇部市役所職員有志
韓国生命平和紀行一行 在日本朝鮮人総連合会山口県本部 調布ムルレの会
日教組（山口教組）岩国支部 日本基督教団宇部教会 日本基督教団宇部緑橋教会④
日本基督教団小郡教会
- (その他) 匿名希望など 19件

募金へのご協力をお願い

- 「長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金」にご協力下さい。
 - 「募金パンフレット」の配布にご協力下さい。
 - 「募金パンフレット」の設置にご協力下さい。設置した場所を事務局までご連絡頂ければ幸いです。
 - 「募金パンフレット」記載の賛同者となって下さい、募って下さい。
- ※「募金パンフレット」はお気軽に事務局までご請求下さい。

草地大作

七月最後の土曜日(三〇日)、今年も長生炭鉱フィールドワークが開催され、小学五年生と一年生の子どもを伴って参加しました。会場は、西岐波のふれあいセンターでした。まず最初に一八七名の犠牲者の位牌が並べられます。内一三七名は朝鮮半島から徴用されてきた人々です。未だになお、西岐波の海の底に沈んだまま遺骨も引き上げられず、一夜にして作られた位牌のみがその人たちの生きていた記憶であることに、胸が痛みました。



内岡さんによる炭鉱クイズ



子供達といっしょに作ったチヂミ

クイズ形式で、当時の宇部にはたくさん炭鉱があったことや、現代の石炭事情、事故が起こる前から長生炭鉱は水没事故の危険があったことなどが、分かりやすく伝えられました。四度目の参加となった子どもたちも、少しずつ語られる内容を深く理解できるようになり、上の子どもはよりはっきりと、当時の状況を胸に刻んでいました。

参加者が朝鮮半島の文化に触れることを目的として、チヂミをみんなで作って食べる企画があり、おいしい昼食もいただきました。

昼食後には海岸に赴き、ピーヤの前で献花をしました。何度か赴いたことがある海岸で

すが、今回は潮が引いていたこともあり、今までで一番ピーヤに近い場所に立ちました。手が届きそうな距離でした。この排気口の下になお置き去りにされている方々のことを思い、申し訳なきが込み上げました。少しでも早く追悼碑を建立し、霊の慰めを祈らねばならないとの思いを強くしました。

九月には加藤登紀子さんのチャリティコンサートも行われます。フィールドワークで受け止めたことを心に刻みつつ、協力を継続していく意志を確かにし、海岸を後にしました。

(憲法を活かす市民の会・やまぐち『にゅつすれたあ』No.170号より転載)



最後は、ピーヤに手の届きそうな場所での献花